

■令和元年9月27日に「大嘗祭」のコメの収穫儀式「斎田抜穂の儀」■

悠紀田は、栃木県高根沢町の石塚毅男さん（55）の田んぼ。
主基田は、京都府南丹市の中川久夫さん（75）の田んぼです。

9月18日にお二人の田んぼと決定し、9月27日に刈り入れされました。

令和元年11月14-15日の大嘗祭ではお二人が育てられたお米が使われることがあります。

東西の悠紀・主基に対して、対馬では南北の悠紀・主基が定められています。対馬南部の豆酸にあります。対馬北部の佐護にある天神多久頭魂神社が主基宮といわれています。

悠紀（ゆき）・主基（すき）の語源については不明といわれていますが、彦火火出見尊の父神である瓊々杵尊が天孫降臨される時、降臨地点を「行き過ぎ」ないよう座標軸を示されたものと思われます。高皇產靈神や神皇產靈がお動きになられていた遠い神代の昔から、対馬には、座標軸を示す特別な使命が与えられていたのだと思いません。

悠紀・主基を決める龜ト（きぼく）は、御皇室と対馬の豆酸に伝承されるのみとなつていて、豆酸の重要性が示されています。さらに、豆酸と対で語られる北の佐護の位置がわかります。

さらに、豆酸に伝承されている「天童」は、地球の大天変地異があつた時代、伊勢の天照大御神さまを陰ながらサポートするために龍良山（たつらさん）に降臨された天照大御神さまの御姿です。

天照大御神さまは、神様として降臨されたのではなく、「童（男の子のわらべ）」として降臨されていました。天童が混同、習合し由来が失われています。

月の光奉賛会 代表 成田亨 >
〒177-0033 東京都練馬区高野台1-23-30 ガーデンコート高野台 805
携帯 080-9175-4666 メール naritatooru@gmail.com



日時：12月12日の満月の日か、前後日

場所：豆酸の多久頭魂神社（悠紀宮伝承）

大嘗祭がつがなく執り行われ、次の時代に歩み始めています。

大嘗祭が行われる前日11月13日には「はやぶさ2」はリュウグウから地球に向けて帰還を開始しました。「はやぶさ2」は、次の時代を始動させる試料を2020年11月に持つて帰ることになつていて、地球上に帰還した翌年2021年1月1日の天皇陛下の四方拝から、言霊の力が全ての人間に解き放たれます。無事に次の時代に入れるようには祈念したいと思います。

■御祈願の趣旨 ■

御皇室の弥栄と日本各地の宮司様の弥栄を祈り、世界の平和を祈念し、そういう活動を支えられる地域経済の繁栄を願います。

宮司様に大祓祝詞を奏上していただき、参列者で教育勅語を奉唱します。

■「月の光奉賛会」とは ■

「月の光奉賛会」とは、日本神話の源流をなす伊邪那岐命と伊邪那美命の国生みの島々、神話に由来する島々を顕彰する奉賛会です。代表を務める成田亨は、平成7年（1995年）の阪神淡路大震災以降、家族で日本各地の1500カ所以上の神社を参拝してきました。

御神職の方々のその先には、天皇陛下がおられるものなので、平成から令和への御代替りにあたつて、こういうことが自覚できるように御神事をやつていくことを目的として設立しました。

月の光奉賛会の名称で、玉串料をお送りします。

みなさまの地元の神社の宮司様に対馬のチラシをお渡し、そして、地元の神社に玉串料を納め、対馬に合わせた御神事をお願いします。